

令和5年度第3回北薩地域保健医療圏地域医療構想調整会議（議事概要）

日 時：令和6年2月19日（月）午後7時～8時30分
場 所：川薩保健所2階大会議室
出席者：委員21名（欠席者1名），随行者8名，事務局5名
傍聴者：1名

議 事

(1) 報告事項

ア 令和5年度第2回地域医療構想調整会議の開催状況について
イ 令和5年度第2回北薩地域保健医療圏地域医療構想調整会議病床機能別専門部
会の協議結果について 【資料1】

(事務局より報告)

- ・資料1に基づき報告した。

(各専門部会議長より専門部会の協議結果を報告)

(質疑・応答)

- ・特になし

(2) 協議事項

ウ 公立病院経営強化プラン・公的医療機関等2025プランの進捗状況について
【資料2】

- ・ 川内市医師会立市民病院
- ・ 済生会川内病院
- ・ 薩摩郡医師会病院
- ・ 出水総合医療センター
- ・ 出水郡医師会広域医療センター

(各医療機関より報告)

- ・資料2に基づき説明した。

(意見)

- ・阿久根市においては、地域医療の中核を担っている出水郡医師会広域医療センターからの要望により、令和6年度当初予算に出水郡医師会広域医療センターへの運営補助として1億3,200万円を計上した。なお、財源は特別地方交付税で負担割合は国は8割、市が2割となっている。県に市が負担する2割分の2,600万円のうちいくらかでも補助を要望したい。

(回答)

- ・御要望については、県の担当課へ報告する。

(質疑)

- ・医療従事者の確保が課題となり、病床を再稼働できない状況があるが、各医療機関において医療従事者の確保についてどのように対応しているか。

(意見)

川薩保健医療圏

- ・人材不足は大きな問題であり、特に看護師は配置基準があり、看護師が不足していると病床が成り立たない。
- ・人材派遣センターからの派遣を予算化や、病院間の人材交流等を行い人材を確保していかなければならないと考えている。

- ・看護師の再雇用や定年延長をしているが、高齢化が進んでいる。
- ・看護学校の学生が定員の半分ほどしか来ないこともあり、非常に厳しい。
- ・今回、薩摩川内市からは市外からの学生に対して家賃の補助も開始され少し学生が増えつつあるが、引き続き対策を考えていかなければならない。
- ・薩摩郡は他の圏域よりさらに全職種が不足しており、若い職員が入ってくることは難しい状況であり、定年延長もしている。
- ・看護学校の奨学金も県内全域の看護学校へ広げて人材の確保をしていきたいと考えている。

出水保健医療圏

- ・医師、看護師等の確保については大学等の医局訪問などを行い、これまでの取り組みの強化を図りつつ新たな診療所の開設に向け寄付講座を活用している。
- ・看護師と薬剤師が不足しており、医療系の学校への訪問活動や奨学金制度の充実、院内保育所の有効活用、教育環境の整備に取り組んでいる。
- ・また、離職しないことが重要であり、入職後の教育も看護部が様々な活動を行っている。
- ・薬剤師も奨学金の制度を整え人材確保への対策を行っている。
- ・メディカルクラークの導入やタスクシフトも行っている。
- ・看護師の確保では、時短勤務や働き方のフレキシビリティをつけることやSNSの活用を行っている。
- ・ワークシェアリングでは、看護師が不足していると夜勤のスタッフが確保できず、患者を十分に受け入れられない状況があったため、リハビリのスタッフに協力を依頼して一緒に夜勤に入ってもらい、受け入れの患者数を増やしている。
- ・行政の関与も重要であり、地域で勤務することで返済を免除するような奨学金の検討も考えてはどうか。
- ・出水保健医療圏には、看護学校が4つあるが、どこも学生が激減していると感じる。
- ・ここ数年で特に新型コロナウイルス感染症の影響が大きい。看護師を目指す子供たちにとっては負の側面が大きかったと感じる。これに対しては、国やメディア等が看護師のイメージアップにつながるような取り組みに期待をしたい。
- ・准看護学校は財務状況は厳しいが、地域で看護師を育てていける場として継続していきたい。それがひいてはこの地域の看護師の確保に繋がると信じてやっていきたい。

<協議結果>

公立病院経営強化プラン・公的医療機関等2025プランについて承認した。

エ 紹介受診重点医療機関について

【資料4】

(事務局より報告)

- ・資料4に基づき外来機能報告の結果及び紹介受診重点医療機関について説明した。

(意見)

- ・基準の数値については、再計算したが基準は満たしていなかった。紹介率、逆紹介率を再計算したところ、紹介率が38.6%で逆紹介率は52.5%だったが達成していなかった。
- ・令和5年の4月から令和5年の12月までの紹介率は40.2%であり、逆紹介率は33.5%であった。紹介状を持参して受診される方が多いため、基準を満たすだろうと考えていたが、令和4年度、5年度は発熱外来の患者も多かったが、当院の初診の患者の半分も紹介受診重点医療機関の基準の対象者には入らないことが分かり、基準が厳しいと感じているが、何とかできるように努力したいと考えている。
- ・出水医療圏にとっては地域医療の中核を担う出水総合医療センターと出水郡医師会広域医療センターの2か所が紹介受診重点医療機関として必要であると考えており、専門部会においても協議し、合意している。

(質疑)

- ・救急車で来られる方は初診の患者さんにカウントされるのか。

(回答)

- ・外来機能報告のマニュアルでは、紹介率のための初診の患者数については救急の患者や休日または夜間に受診した方、あとはその医療機関の健康診断で疾患が発生された患者は除くと記載されている。

<協議結果>

- ・川薩保健医療圏では、川内市医師会立市民病院及び済生会川内病院を紹介受診重点医療機関として承認し、県へ報告する。
- ・出水保健医療圏では、出水郡医師会広域医療センター及び出水総合医療センターを紹介受診重点医療機関として承認し、県へ報告する。

エ 令和4年度病床機能報告と定量的基準の照合結果について

【資料5】

(事務局より説明)

資料5に基づき説明した。

(質疑・応答)

- ・特になし

<協議結果>

令和4年度病床機能報告と定量的基準の照合結果について承認した。

—— 議事終了 ——